

6年1組 総合的な学習の時間学習指導案

「戦争と平和について考えよう」

日時 平成29年6月8日(木) 5校時
場所 6年1組教室

1. 単元について

(1) 単元の価値

本校では毎年4月に広島方面に修学旅行に行き、平和公園でのフィールドワークや原爆資料館の見学、語り部の方(細川さん)の話の聞き、戦争や平和について考える学習に取り組んでいる。戦後70年が過ぎていく中で、子ども達が戦争と平和を自分のこととして真剣に考える機会にしたいと考え本単元を設定している。昨年度教材研究を深める中で、地域の土手に植えられている桜が戦時中に滞在された予科練の方々が平和を願い地域の方と植えられたものであることを発見した。予科練の方(谷本さん)の思いや地域の方(岩佐さん)の思いを聞く中で、戦争を身近に感じ、平和の大切さを自分のこととして考えることができると考える。また桜並木の存在を地域にアピールしたり、土手の整備をしたりすることで、平和の大切さと同時に地域貢献も考えられる学習になると考える。頭の中で考え、思考のあとが見えるようにすること、様々な方法で調べること、体験して来られた方のお話を聞くこと等の教室での学習と実際に体験してこそ分かる思いをたくさん経験させていきたい。1学期に戦争や平和、命の大切さを学習することで、2学期には人権学習、さらに5年生の時の保育園の年長児との交流を1年生との日々の交流に生かしながら、未満児との交流をする予定にしている。平和と人権は人の命・お互いの気持ちを分かり合うという点では密接につながっていると考える。3学期はそれらのまとめとして、「わたしの人権宣言」や4月の自分と今の自分を比べてどんな成長があったか、どんな力が伸びたかを発表する「卒論発表会」をしていく。また、学級を飛び出して、全校を巻き込んだ人権集会に取り組んだり、その後、あたたかい思いを共有し合うための赤いリボン運動をして全校児童と先生が赤いリボンで結ばれる学校を目指そうと活動したり、全校の意見を吸い上げて会見小学校児童憲章を作って配布したりするなど主体的に動くことで学校や地域が変わっていくことが実感できるとも考える。そして、何よりも自分の成長・自分の変化に気づくことができるのは、この単元ならではである。

(2) 子どもの実態

昨年度の2月に行った「総合的な学習の時間」についてのアンケートでは、下記の通りである。

	そう思う (%)	どちらかといえばそう思う (%)	どちらかといえばそう思わない (%)	そう思わない (%)
みよりの時間の勉強は好きだ	50	29	15	6
体験したことや集めた情報を整理したり、課題を解決するためにどの情報を使ったらよいか考えたりしている。	32	44	18	6
みよりの時間で、学級の友だちや地域の方と話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えている。	35	50	12	3
みよりの時間で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	44	35	15	6
地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っている。	47	41	9	3
みよりの時間で学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。	44	41	12	3
地域や社会をよくするために何をすべきか考えている。	21	35	35	9

本学年の児童は、5年生の時に総合的な学習の時間に、米作りや保育園の年長児との交流を通して、地域の方とのかわりを積み重ねてきた。多くの子ども達がみよりの時間(総合的な学習の時間)が好きであり、学習したことは普段の生活や社会に出たときに役立つと考えている。また昨年度の学習から、地域をよりよくしようと思い、友だちや地域の方と協力して学習を行っているとも感じている。一方で地域や社会をよくするために何をすべきか考えているという子ども達はまだまだ少ない。地域の方と学習したり、地域のことを学んだりすることのよさは分かっているが、主体性に欠けていることがアンケート結果からも分かる。子ども達は5年生の3月に引継いで6年生の取組を知り、本単元の学習に興味をもつと共に、最高学年としてがんばろうという意識をもって生活している。総合的な学習においても満開に咲く桜の土手を見学し、桜の美しさを感じることができた。修学旅行で現地学習をすることで戦争の悲惨さを学んだ。今年度は呉市にある大和ミュージアムにも見学に行き、乗組員に鳥取県出身の方が多く乗艦され、

尊い命を犠牲にされたことも知った。学習を始めてまだ2か月であるが、「平和な世の中になってほしい」「なればいい」と思っていた子ども達はこれらの体験や学習を通して、本気になってきている。広島では語り部さんに実際に話を聞くことができる機会はあとわずかだが、地元の桜のことを語り継げる人に直接話を聞くことができる機会もあとわずかであることを実感し、行動しようとやる気になって取り組んできている。児童は特攻隊の方の桜に込められた思いを伝えようと一生懸命頑張ってきている。学級の実態として、子ども達は意欲や思いはもっているものの、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表することにはまだまだ苦手な子どもが多い。様々な思考をツールで見える化したり、それらを元に話し合ったりさせる学習も積み重ねていきたい。

(3) 指導にあたって

①戦争や平和を自分のこととして探究するための課題設定

広島方面での修学旅行を通して子ども達は戦争の悲惨さや平和の大切さを学んだ。その戦争や平和の大切さを自分のこととして、今考え考えなければならないという意識にさせるために、地域に植えられた桜並木のフィールドワークや地域の方の聞き取りを積極的に行い、広島での学習と地域との学習が結び対していることを常に意識させたい。また調べ学習や聞き取り学習において平和の大切さを願って植えられた桜並木が家族や地域の方にあまり知られていないことや世話をする方が高齢化し、土手の整備が不十分である現実を知り、悔しさを感じ、自分たちが動かなければ桜並木や先人の思いを引き継ぐことができないという意識を引き出し、主体的に行動させたい。

②個やグループで探究に関与し合い、子ども同士、地域の方と協同的に学びを進める場の設定

修学旅行での学習を通して、子ども達は戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを強く感じた。また地域の桜の美しさや先人の思いを知り、意欲的に調べ学習や聞き取り学習に取り組んでいる。この戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えたり、地域で何か貢献できないかと考えたりしている。自分が調べたり、考えたりしていることを様々な思考ツールで見える化したり、それらを元に話し合ったりさせる学習も積み重ねていきたい。これらの学習を通して、自分たちが伝えたいことは何なのか、取り組みたいことは何なのかより明確化されていくことと考える。また地域の方に参加していただくことで、子ども達だけでは気付くことのできない視点や情報が加わり、新たな気付きや深い理解、地域の方との協同的取組が生まれると考える。このような対話的な学びを重視する。そのために、思考ツールの活用や構造的板書の工夫を行い、グループや全体での話し合いを活性化させていく。

③自分達の考えや思いが実践される場の設定

グループや全体で話し合うことで、地域にある桜並木の意味や大切さを多くの人に伝え、行動したいという具体的アイディアが出てくると考える。桜並木を知らせるポスターや看板であったり、たくさんの人に来てもらえるような祭りがしたいなどが考えられるがこれらのアイディアを地域の方と協同しながらできるだけ実践できるようにしていきたい。これらの実践を重ねることで子ども達は地域に愛着をもち、地域や社会をよくするために何をすべきか考えるようになる。またこのような実践を積み重ねることで、考えをもち話し合うことの大切さも同時に感じることができよう。また実践に向けた過程の途中で失敗も経験することで、友達や地域の方と真剣に協同したり、試行錯誤したりしながら、課題を克服する力も身に付くと考える。

2. 単元目標

- ・広島で体験したことや地域の戦争にまつわる史実と出会い、課題を見つけ取り組むことができる。
- ・会見の戦争の史実を守り育てようとしている地域の方の姿勢や態度を学び、課題を共有しながら、平和や人権の大切さについて考えることができる。

3. 単元の評価規準

①知識や技能	②思考力・判断力・表現力等	③学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
ア修学旅行(広島)を通して、平和都市広島の歴史を知り、戦争の恐ろしさや平和の大切さに気付いている。	ア広島で体験したことや地域の戦争にまつわる史実と出会い、自分の課題を見つけ伝えている。	ア会見の戦争の史実を大切に守り育てようとしている地域の方の姿勢や態度を学び、自分も関わっていかうとしている。
イ地域探検や聞き取りから会見の地域にも戦争の史実があり、平和を守ろうとしている人がいることを理解している。(ふるさと愛着力)	イ自分の課題について調べ方を決め、計画を立て、多様に情報を収集している。	イ会見の戦争の史実や守り育てようとする人から学んだことから、地域のよさや課題をみつけグループの友達と協同的に課題を解決しようとしている。(人間関係調整力)
	ウ目的や意図が効果的に伝わる表現方法について話し合っている。	
	エ会見の戦争の史実を守り育てようとしている人のよさや課題を共有し、自分たちにできることを提案し、地域への啓発活動を行っている。(社会参画力)	

4. 単元構成（全82時間…まち未来科12時間を含む）

○学習活動	子どもの問い・思考	評価規準
※6年生との引継会（3月） 6年生が学習した内容や思いを次の6年生に伝える。	・小松谷川の桜が平和のさくらであることをぜひ伝えてほしい。→6年生の思いを引き継いで平和の学習を進めるぞ。修学旅行や6年生での学習が楽しみだな。	
広島に行って調べてみよう。実際に見てみよう。聞いてみよう。		
○広島の歴史や戦争時の様子について資料や現地調査で調べる。	・調べたことを広島で確かめるのが楽しみだな。	①ア
○広島に行って実際に調べたり、聞いたりしたことをまとめ、伝え合う。	・語り部さんに聞いてみたいことがあるんだ。	②ア
	・平和公園のことを調べたから絶対に見て確認したいな。	②イ
	・さだこさんの像にささげる千羽鶴を折ろう。	
桜並木や看板・元手間小学校講堂を見たり、岩佐さんなど地域の方に話を聞いたりしよう		
○会見の戦争時はどんな様子だったのか地域の人にインタビューする。	・看板に桜のことについて書いてある。	①イ
	・予科練だった方が平和を願って植えられたのだね。	③ア
○桜並木や看板・元手間小学校講堂を見学する。		②イ
もっともっと桜のことをみんなに知ってもらおう		
○会見の戦争時の様子を伝え、平和のシンボルである土手の桜を守るためにはどうしたらよいか考え、話し合い、活動する。	・谷本さんの思いを大事にしなくては。行動に移して、みんなに伝えよう。	②ウ
	・ポスターを作って広めたいな。パンフレットがいいな。	②エ
	・詳しく知ってもらえるよ。看板を新しく作り直したいな。	③イ
	・桜並木で祭りをしたり、旧手間小を資料館にしたりしてみたいな。	
自分や周りの人について考えよう		
○自分や周りの人との関係から人権や差別について考え、話し合う。	・自分の心の中にも弱い自分があるな。	①ア
	・男女差別や障がい者差別という差別があるよ。	②ア
	・世の中の差別について調べてみようよ。	
障がいのある方と交流し、障がい者についてもっとよく知ろう		
○障がいのある方と交流し、話し合うことで行き方を学び、だれもが仲良く過ごせる世の中について考える。	・私たちの知らないところで苦労されておられるんだな。	①ア
	・もっと人の立場に立って考えたいな。	
	・車いすバスケットをしたけれど、とてもかなわないね。また夢や希望をもってがんばっておられるね。	
伝え隊として、紅葉した桜の木のしたで祭りを開こう。		
○1学期に話し合った祭りを計画をもとに準備をしたり、練習しだりする。	・桜の植樹から20周年だから桜の葉が紅葉していると	①イ
○地域の方を招待し、祭りを行う。	きに地域の方と話し合ったり楽しんだりしたいな。	②エ

○祭りを行った後に、振り返りをする。	・計画をもとに準備や練習をしよう。	③ア
	・多くの人に来ていただき、小松谷川の桜が平和のさくらであることや先人や地域の方の思いを伝えよう。	④イ
部落差別や様々な人権問題について考えよう		
○部落差別をはじめとする様々な人権問題について聞いたり、調べたりする。	・障がい者差別の他にもきっと差別があるのだろうね。	①イ
○差別のない世の中にするためにはどうしたらよいか話し合う。	・もっと勉強していきたい。	②イ
	・世の中から差別をなくすために私たちは何をしたらよ	②ウ
	いだろう。たくさんの方の思いも聞きたいな。	③ア
	・坂田さんの生き方は素敵だな。私も坂田さんみたいになりたいな。隣保館に行ってもっと詳しく調べたり、聞いたりしたいな。	③イ
	・会見小学校や南部町から差別をなくしたいね。町の取組も聞いてみよう。	
人権集会を開こう 私たちの人権宣言をしよう		
○差別をなくすことをまず自分たちからなくすことを確認し、どんなことができるか話し合う。	・校内の差別をなくすために、今まで学習したことをみんなに伝えたり、全員で話し合ったりしたいな。	②エ
○校内人権集会を開いたり、人権宣言を保護者や地域の方に発表したりすることで差別をなくすための取り組みを行う。	・私たちの人権宣言を開いて、たくさんの方に聞いてもらいたいな。	③ウ
	・命の大切さや一人一人が大切にされる世の中になるために行動するぞ。	
私たちが学習したこと・思いを引き継ごう		
○平和学習や人権学習で学んだことを卒論にまとめ、保護者に発表する。	・家族や5年生に平和や人権の大切さを伝えたいな。	①ア
○平和学習や人権学習で学んだことを平和宣言として5年生に伝える準備をする。	・どんな方法で伝えると私たちの思いがよく伝わるかな。	②ア
○学習のまとめと今までお世話になった方へ感謝の心を持ち、どのような活動で締めくくするか話し合い、取り組む。		②イ
		②ウ
		②エ
		③ア

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・祭りの名前を本気で考え、自分の意見を分かりやすく伝えたり、友達の考えに応えたりしながら、平和に対する自分の思いをさらに深めることができる。

(2) 準備物

- ・みのりノート イーゼル 思考ボード

6. 本時について (14 / 26 時間)

目指す姿

目的や意図に合った祭りの名前を本気で考え、自分の意見を分かりやすく伝えたり、友達の考えに応えたりしながら、平和に対する自分の思いをさらに深めている。

・岩佐さんと谷本さんの言葉を思い返す
・はじめのあいさつ

【主な学習活動・内容】

課題

伝え隊の思いのこもった
祭りの名前を決定しよう。

班ごとに1番いいネーミングを選
ぶ。

・ピラミットチャートを使ってカードを動かしながら
自分の意見を言ったり、友達の考えを聞いたりする。

自分だったらこの名前の
祭りに行くと思うなあ。

この名前じゃ人は来な
いと思うよ。だって…

私も同じ考えだけど理
由は違うな。私の名前は
〇〇です

班で決定
した名前
を発表す
る

あっ 同じ意
見だ。

えっつ、この名前
を選んだのは、う
ちの班だけかあ。
いい名前なのに
なんでみんな選
ばないんだろう

各班から出た考えをもとに、ネーミングにどんな願
いや思いがこめられているか学級全体で話し合う。

これでは、大人の人
にはわからないん
じゃないかなあ。

うちの班ではこの名前
に決まったんだけど、や
っぱり私は〇班と同じ
意見なんです。

この名前で、みんな来て
くれるかなあ。

この名前のこの
部分とこっちを一
緒にしたらどうか
なあ。

これで本当に思い
が伝わるのかなあ。
もっといい名前は
ないかなあ。

振り返り
をする。

みんなの意見を
聞いているうち
に自分の考えが
変わったけど、こ
の名前がいいと
思うな。

今日はたくさん意
見が出たな。

やる気が出てき
たぞ。

・あいさつ

留意点

支援

・谷本さん・岩佐さんの思いを
想起し、それを伝えたり、修
学旅行で見たり聞いたりし
てきたことを伝えたりして
戦争は二度としてはいけない
こと、今ある平和の尊さを
分かってもらうための祭り
であることを確認する。

・単なる言葉の雰囲気ではなく、自分たちが目指す祭りにするためにどの名前がいいのかを理由をあげながら本気で話し合うようにさせる。

・事前に自分の考えをノートに書かせ、自分の考えをしっかり持って話し合いに参加できるようにする。

・全員が読みやすい位置で話し合いができるよ
うにイーゼルを使う。

・色別のカードを準備し、児童同士がかかわり
合いながら情報を整理しやすくする。

・話し合いに参加できにくい児童 (H・N・O・
I) のそばでいたいことを代弁する等して全
員が自分の考えを言えるようにする。(支援者)

・話し合いの中で、友達の意見を聞いて、個の意見が変わるのは認める。

・理由をつけて自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりする中で、祭りへの思
いや、自分たちの思いをみんなに伝えたいという思いが高まるようにする。
※伝え隊の思いを込めることに対話の焦点化が図れるようにする。
※谷本さんの言葉を受け止めた伝え隊の思いが引き出せるようにする。

・自分の意見が採用
されたかどうかで
はなく、祭りへの
思いが高まったか
どうか、祭りの目
的がはっきり見え
たかどうかを大事
であることをおさ
える。

評価

③ア会見の戦争の史実を大切に守り育てようとしている
地域の人の姿勢や態度を学び、自分も関わってこうとし
ている。→岩佐さんや谷本さんの思いを考え、自分の意見
を分かりやすく伝えたり、友達の考えに応えたりしなが
ら、平和に対する思いをさらに深めている。

※評価方法…発言・振り返りワークシート

・岩佐さんの話や、DVDでの谷本さんの思いを忘れないように掲示し、いつでも想起できるようにする。※岩佐さん…「20年間世話をしている。普通の桜ならしていなかった。」谷本さん…「予科練のことは忘れられるかもしれない。でも桜さえ大事にさえしてくれればそれでいいのではないかな。」

・本時に至るまでの自分たちの活動や学習の足あとも掲示しておく。